

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者の評価結果について（平成29年度中間）

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」についての分析
- (3) 「Ⅲ 組織運営」についての分析
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」についての分析

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度受託事業者が「一般財団法人 大阪市コミュニティ協会」から「社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会」に変更になった。新しい支援員が改めて評価を行なった結果、前年度末と比較していくつかの地域で進捗している一方で後退した地域があるなど、区として地域に対する認識を新たにできた点は評価できる。 ・前半はこれまでの報告資料や各地域の沿革資料等の読み取り、顔合わせ等に時間がかかり、地域に出向く時間を多くとることができていなかったが、後半は積極的に地域に出向いていた。 ・地活協をサポートできるような地域貢献に関心を持つ企業とのマッチングのための調査・ヒヤリングに時間を割いているが、まずは、地域との繋がりづくりや実態把握をはじめ、後継者育成・人材発掘など早急に取り組むべき諸課題に注力すべきであった。 ・6月に新たに立ち上がった「城東区ボランティア・市民活動センター」と連携し、情報交換しながら、ニーズの把握と情報提供を積極的に行い、地域要望に応じていく必要があるが、まだ十分機能していない。 ・SNSの活用、広報紙の発行の支援を行なっているが、依然として地域差が大きい。 ・会計支援に関して、簡素化の要望が非常に強いことから、会計担当者に対して情報交換会を開催し、会計担当者間のつながりを作り、新たな会計ソフトを紹介するなど負担軽減に特に力を入れて取り組んでおり、評価できる。 ・CB/SBに関して、区でコミュニティ回収と区広報誌配布に絞って情報提供を行なっているが、まちづくりセンターとして地域に働きかけるまでに至っていない。

2 事業の実施内容（支援策（取組）の内容）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の提案内容

評価	左記の理由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決に向けて、強みを持つ企業、地域貢献に関心を持つ企業のリサーチを進めているが、現時点で結果が出ていない。2地域程度を「モデル地域」として選定し、課題整理ワークショップを行い支援するとしているが、現時点で未だ選定中である。各地活協へのニーズの把握のため地域訪問を行なうとしているが、訪問頻度が少ない。 ・「城東区ボランティア・市民活動センター」と連携し、事業活動者やリーダーとなれる人材の育成、発掘を行うとしているが、具体の取り組みには至っていない。 ・「情報交換会」を開催し、昨年度までのように地域別ではなくテーマ別開催、とりわけ会計担当者の勉強会として各地域担当者間の交流を進めていることは評価できる。 ・城東区で設定している「CB/SB実施による課題解決」に対しては、現時点で支援実績がない。 ・今年度より、新たに受託者が区社会福祉協議会に変更したことから、現時点では支援実績が少ない結果となっているが、区社会福祉協議会がこれまで各地域と築き上げてきたノウハウと信頼関係を活かせば、もう少し結果をだすことができたのではないかと思われる。期末までに実績を積み上げることを期待する。

3 事業の実施体制等

評価項目

(1) 自由提案による地域支援の提案内容

(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容

(2-2) フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・区社会福祉協議会の地域活動職員とのコラボレーションや「城東区ボランティア・市民活動センター」との連携からは、まだ地域課題の解決と新たな担い手の発掘という成果に結びついていない。 ・当初、支援員の体制を、区の南北16地域を2人で8地域ずつの担当として進めていたが、下期より地域要望に応じて1人4地域を専任し、地域との信頼関係をより深く築くようにシフトすることを予定しており、ニーズに即した支援であり有効と評価する。 ・区社会福祉協議会と地域情報を共有できることは大きな強みであり、特に地域福祉に対する課題解決では共通する情報も多いと考えられ、連携を密にして取り組まれない。また、他の区で受託している区社会福祉協議会から情報やノウハウなどを聞き取り活用されたい。 ・まちづくりセンターと区とで毎月1回連絡会議を開催し、活動状況のチェックと評価、今後に向けた支援策等について検討をしており、地域の小さな課題のスムーズな解決にもつながっている。

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）（5つ以内）

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域一律の支援ではなく、自律運営の進捗度差に応じた支援が必要であり、組織運営支援、会計支援、広報関係支援、事業企画支援など地域ごとにメリハリをつけた支援を行なわれたい。 ・会計支援は、まちづくりセンターの支援が無くてもできる地域が出てきている一方で、支援なしでは決算報告等ができない地域も少なからずあり、属人的にならないよう情報交換会でも紹介した新会計ソフトの導入を進められたい。 ・広報支援について、SNSを全地域で立ち上げているが更新できていない地域もあり、定期的なチェックと支援が必要である。また、一方で紙ベースの広報紙の未発行地域が2地域あり、今年度中の全地域での発行を目標に支援を進めてきているが、現時点で具体の進展はまだない。 ・新たな担い手の発掘、育成については、「城東区ボランティア・市民活動センター」と連携して地域に対してどんどん紹介していく必要がある。

5 現時点での支援策（取組）の実施状況に対する区の評価及び意見

評価項目

(1) 現時点での支援の実施状況

(2) 上記を受けた、年度後半の支援についての考え

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度受託事業者からの引継ぎが充分でなく、前年度補助金決算報告に関する対応に多くの時間を費やしていた。 ・区で実施した今年度第1回目の「各地域と区長との意見交換会」でも、補助金会計処理とまちづくりセンターに対する要望が多く出されたところであり、引き続き「会計担当者に対する情報交換会」の開催、支援員1人4地域の専任制へのシフトにより、地域と一層の信頼関係を築いたうえで、地域の実情を充分把握し、人材の発掘、育成、マッチングを進めてもらいたい。 ・新たな担い手の発掘ができた地域では、自律運営に関する進捗度が高まってきており、区社会福祉協議会のノウハウと実績を活かし、「城東区ボランティア・市民活動センター」との連携を進めることにより、新たな人材の発掘に努めてもらいたい。 ・地活協をサポートできるような地域貢献に関心を持つ企業とのマッチングのための調査・ヒヤリングは、喫緊の課題解決に結びつくまでには相当な時間がかかると思われ、また地域もこれまでから企業に対して多くを求めていることから、一度に多くの成果を求めず、毎年少しずつ実績を積み上げていく支援でよいと考える。

6 総合評価

評価	左記の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理に対する簡素化の要望が非常に強いが、一定の透明性確保は必須であることを地域に粘り強く説明し、理解を求めることが必要である点について、地域の信頼関係を築きながら少しずつ理解を深めていっており、期末に向けて理解が進むことを期待する。 ・また、会計処理支援が自力でできるようになった地域には、福祉・防災、マンション住民と在来の戸建て住民との交流など地域課題解決のための手法や地域活動協議会の認知度アップや透明性の確保のための広報活動を支援するなど、本来のまちづくり支援に力を注がれたい。

(評価基準)

- S：本市の求める水準を大幅に上回る効果が得られた
- A：本市の求める水準以上の効果が得られた
- B：おおむね本市の求める水準どおりの効果が得られた
- C：本市の求める水準の効果が得られていない